

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立水沢小学校

校長 福島 孝直

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

「水沢と共に育つ子どもの育成」を活動目標に設定し、水沢に親しみや誇りをもち、自分から発信し、水沢の人・文化・産業・自然と大切に活動をしています。児童の教育については20年後、30年後に水沢地区を支える人材として「地域を理解し、地域を愛する子」「地域や地域の人々とつながり合える子」の育成をめざしています。また「学校を核としてつながり合える地域社会づくり」「世代間の交流が高まる地域社会づくり」をめざした活動になることをねらいとして、地域との連携を図っています。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

「水沢を学ぶ」「水沢に学ぶ」「水沢と学ぶ」をキーワードに、水沢地区の自然、文化、歴史、産業などを学び、学習の充実を図ることができました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために活動を縮小していたものが、活動内容を工夫することで実施できるようになりました。



① お茶を中心とした取組

「お茶づくり」を中心とする地場産業の振興は、地域の人々の大きな願いのひとつです。本校では6年生が学校所有の学習茶園で「お茶栽培活動」を行っています。4月にかぶせ茶ならではの「ネットかけ」と「茶摘み」を体験しました。また、2月には、三重茶農協の方をゲストティーチャーとしてお招きし、お茶の歴史や効力、おいしいお茶の入れ方を教わり、「きき茶」体験もしました。



② 安心・安全の取組

3年生は5月に校区探検で市民センターを訪れ、消防団の方から町の防災について教えていただきました。5年生は、6月に行われた自然教室で、非常食であるレトルトカレーを調理して、改めて防災について考えました。4年生は地域コーディネーターの方をゲストティーチャーとしてお招きし、9月に「防災教室」を開催しました。防災倉庫を見学し、防災意識を高めました。

さらに、さらに全員協議会を中心とした年3回実施する「交通安全・あいさつ運動キャンペーン」をはじめ、保護者による下校パトロール、地域の「みまもる会（見回りボランティア）」の方々による登下校の見守りなど、児童の安全を地域全体で見守っていただいています。

③ 地域ぐるみですすめる人づくり

3、4年生は、11月に地域のゲストティーチャー（全盲の方とガイドヘルパー）をお招きし、「SSピンポン」（サウンドテーブルテニス）を実施し、視覚障がい者向けの卓球「SSピンポン」の普及を願う思いを知り、人権教育につながりました。



④ 地域理解を推進する取組

5年生は、地域の米づくり農家の方にお世話になり、バケツ稲栽培を行いました。子どもたちは5月に「種まき」「苗植え」、9月に「稲刈り」を体験することができました。稲作の世話や脱穀、藁で縄づくりをすることができました。育てたお米は、防災パック炊飯で食べる体験もすることができました。



1・3年生は、3年ぶりに白寿会（老人会）の方々に来ていただき、竹とんぼやこま回し等の昔遊び体験と水沢の昔の話を聞く活動をしました。子どもたちにとって大変貴重な体験となりました。



⑤ 花いっぱい活動

4年生は、11月に水沢地区「花いっぱい活動」の一環として、プランターにビオラの苗を植えました。水沢地区社会福祉協議会や地域の花栽培農家の方々からご指導を受け、色とりどりの花を植えました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

- ① コミュニティスクール推進委員会と地域が共催し、さまざまな活動や交流会を実現できました。子どもたちが郷土や水沢に親しみや誇りを持ち、水沢の人や自然、文化、産業などを見つめ直し、地域の方々とともに考えるよい機会となりました。
- ② 地域と連携した交通安全・あいさつ運動や防災関連事業、ボランティア事業、そしてお茶栽培学習の取り組みや地域から学ぶ体験活動を中心とした教育実践において、コミュニティスクール推進委員会が人的・物的両面で地域・学校間の重要なパイプ役を果たしていただきました。

3 今後に向けて

各学年の教育課程に位置づけられている教育活動を「水沢地区」とつながることに焦点化し、コミュニティスクール事業として位置付けて活動してきました。地域の方々とのふれあいや交流活動を通じて、子どもたちは思考力や判断力、表現力やコミュニケーション力などを高めることができていることを実感しています。

今後も、よりいっそう地域と学校が連携・協働し、地域社会全体での教育の実現をめざし、水沢地区を大切に思う子どもたちの育成をめざし、取り組みを推進していきたいと考えます。